

7月18日付けでJR北労組函館地区本部は、函館新幹線総合車両所において、北鉄労から脱退した27歳の青年を新たに迎え入れた。JR連合に結集する全国8万1千名の仲間は勇気ある決断を歓迎する。

## 27歳青年が北鉄労と決別! JR北労組に加入! 新幹線職場で初めての組織拡大!!

### 「平和共存否定」運動の再表面化か!?

2016年3月に開業した北海道新幹線の職場には、現在、残念ながらJR北労組の組合員はまったく在籍していない状況である。最大労組である北鉄労は、今回の脱退・JR北労組加入を受け、「新幹線職場にはJR北労組組合員を配置させないのは会社の方針である」旨を現場で吹聴している模様である。まさに「平和共存否定」運動を行ってきた北鉄労が、再びあからさまに牙をちらつかせ、組織の引き締めと追従阻止に躍起になっているようである。

### 所属組合の変更に伴う業務・職場変更があり得るのか!?

北鉄労はいったい何を根拠に吹聴しているのか理解に苦しむ。まさか、JR北労組に加入したことは、会社の意にそぐわないとでも言いたいのだろうか、会社が転勤させることもあり得るとでも言いたいのだろうか。新幹線検修に関する教育を受けて配属されたにも係わらず、所属組合によって業務や職場を変更させられるようなことがあつては、現場で働く者の意欲が削がれるばかりか、企業風土にも影響するものである。

しかし、北鉄労が会社の人事権を掌握していると思われるような内容の記事が4月18日の産経新聞朝刊に掲載されている。記事では「会社幹部は、北鉄労幹部から組合員を特定の部署へ異動させるよう要求された際、『断ったら、あなたの将来はないよ』と迫られた」旨の内容が報じられた。今、JR北海道は、鉄道事業見直しの問題で注目されている。もし仮に、今回も記事にあるような組合差別的なことを行えば、社会や道民から激しい糾弾を受けることは必須である。会社の常識ある対応が問われる重要な課題である。

## JR連合に結集する全国の仲間が勇気ある決断を歓迎する!